

鹿児島市 火山防災トツプシティ構想 【第2回 検討委員会】

◎ **構想を策定する目的について**

◎ **今回の検討事項について**

1 基本的方向（目指すべき姿とは）

2 重点的に取り組むべき事項

これから紹介する事務局(案)を一つの例と捉えていただき、「火山防災トップシティ構想」について自由にご意見ください

<構想を策定する目的>

◆ 総合的な防災力の底上げ

市民、事業者、行政の火山防災に関する意識及び取組を高めることにより、総合的に防災力の底上げを図る。

◆ 交流人口の拡大

トップレベルの火山防災に取り組む「安心して観光できるかごしま」とあわせて、火山の恵みなどの本市の魅力を発信することにより、交流人口の拡大を図る。

1 基本的方向(目指す姿とは)

活動を続ける活火山「桜島」と共存する鹿児島市は、長い間、**他の都市にはない火山防災対応を実施してきた。**

他の都市にない火山防災対応例

(1) 行政も市民も、長年、火山の恵みを活かして活火山と共存してきた経験を有している

例) 桜島爆発記念碑「平素勤儉産ヲ治メ何時變災ニ値モ路途ニ迷ハサル覚悟」、大正噴火という大規模噴火経験後も60万都市として繁栄

(2) 長年にわたり、地域の安全・安心を創出している

例) 第1回委員会 資料1に示された ハード・ソフト対策

(3) 他地域にない先駆的な対策を実施

例) 世界に発信した降灰経験とその他対策：ロードスイーパー、克灰袋 等

火山防災トップシティの要件例

- (1) 多くの市民とともに、火山の恵みを活かして、**いかに活火山と共存していくかを示すモデル都市となる**
例) 1日中見ていて飽きない桜島、世界に発信した降灰経験とその対策、避難計画を長年継続してきた歴史 等
- (2) 火山防災のハード・ソフト両面の取組に関する**多くの情報を発信できる**
例) 去年の横浜市やオリエンタルランドへの情報提供 等
- (3) 必要に応じロードスイーパー等の対策手段を被災都市等の**支援に提供できる**
例) 2010年霧島山（新燃岳）噴火時の支援 等



火山防災トップシティとは？ → 火山防災のモデルシティ

他の都市にない火山防災対応例



火山防災トップシティの要件例

構想の基本的方向又は目指す姿

火山の噴火や降灰を経験している自治体や地域が非常に少なく、ロードスイーパーや散水車、克灰袋等の降灰除去対策をはじめ、防災訓練を通じて高めてきた避難体制のほか、要望活動による火山活動の観測体制及び砂防施設の充実、防災関係機関との連携体制など鹿児島では当たり前前のハード・ソフト両面の取組が他の火山都市にとって先進的で、火山防災のモデルとなっている。

その一方で、我が国を含め世界各国での火山活動は活発で火山災害に悩んでいる都市は多い。

そこで、本市は、今後においても桜島と共生しながら、国内外の活火山地域の被害軽減のために対策の発信や貢献を行える火山防災のトップシティとして、また、モデル都市としての役割を果たしていく。

2 重点的に取り組むべき事項

第1回鹿児島市火山防災トップシティ構想検討委員会における意見の整理

(1) トップシティ意識の醸成

例) 桜島愛、市民、事業者、市の役割の明記

(2) 持続的かつ更なる火山防災体制の向上に向けた学習体制の構築

例) イタリア、インドネシア、ニュージーランド等の火山国から、先進的な火山防災対策を学ぶ

(3) 火山防災対策の拠点の構築

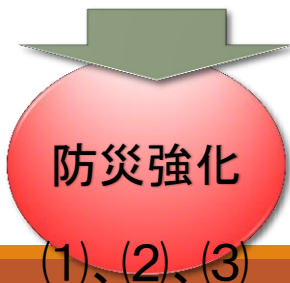
例) 火山観測ミュージアム(仮称)の設置、火山防災研修施設 等

(4) 火山防災対策に係るコミュニケーションの推進

例) 市民(島内と島外、避難側と避難受入れ側等)、市役所内(防災担当とそれ以外)、観光客、等 多様なステークホルダーごとのコミュニケーションの推進

(5) 先進的な火山防災対策を、市民や他の火山地域等をはじめ、世界に発信していく力

例) 平成23年霧島山(新燃岳)噴火時の除灰ノウハウ等の支援、国外へのロードスイーパーの寄付等の支援



重点項目の検討

【重点項目1】 防災強化 ＜関係する意見例＞

- ・桜島と共生してきた長い歴史、そしてこれからも桜島と過ごすという市民の意識。
- ・市民、事業者、行政等のそれぞれがやるべきことを示すと良いのではないか。市役所内でも他の課のことは知らない現状はどここの地方公共団体でもある。
- ・行政が行うロードスイーパーによる降灰除去はもちろん、克灰袋による宅地降灰除去など火山灰対策が住民ベースで対応できている。
- ・火山地域は土砂災害等が発生しやすいが、植物の繁茂状況を見てもその発生頻度は抑えられており、土地が安定している。これは治山対策等の火山防災対策ができているからではないか。
- ・防災訓練が48年間も行われ続けている。
- ・約25年前に参加した防災訓練が進化していることを感じた。
- ・世界が桜島での降灰対策を学んだ事例がある。
- ・火山観光と安全の両立が重要である。
- ・観光客の避難対応や、高齢者の宅地の除灰等の各種課題へのきめ細やかな対策が必要である。
- ・市独自の火山防災研修コースを創設する等の取組も必要ではないか。
- ・民間事業者の協力も得て、防災研修だけでなく、市内や海外の子ども向けの防災教育等も検討してはどうか。
- ・ミュージアムや観測等の観点も加えた、総合研修施設のようなものがあると良いのではないか。
- ・噴火や噴火危機対応後に、各種火山防災対策を見直す体制が重要では。

【重点項目1】 防災強化(例)

- (1) 全ての市民による桜島「愛」及び火山防災対策の理解
- (2) 市民、事業者、市の役割の決定
- (3) きめ細やかな火山防災対策の推進
- (4) 降灰対策等の先進的な火山防災対策のさらなる強化
- (5) 火山防災に係る総合研修およびミュージアム施設の設置
- (6) 火山防災研修や火山防災教育の実施
- (7) 火山災害対策の検証及び防災訓練の継続実施
- (8) 火山観光と安全対策の両立
- (9) 火山防災体制向上に向けた研究の推進